



平成 29 年 9 月 19 日

各 位

会 社 名 株式会社ダイセキ
 代表者名 代表取締役社長 柱 秀貴
 (コード番号 9793 東証・名証第一部)
 問合せ先 企画管理本部長 片瀬 秀樹
 (電話番号 052-611-6322)

業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、平成 29 年 9 月 19 日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、平成 29 年 4 月 6 日に発表いたしました平成 30 年 2 月期（平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日）の第 2 四半期累計期間及び通期の業績予想を修正することといたしましたので、お知らせいたします。

1. 連結業績予想数値の修正**① 平成 30 年 2 月期第 2 四半期累計期間連結業績予想数値の修正（平成 29 年 3 月 1 日～平成 29 年 8 月 31 日）**

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 四半期純利益	1株当たり連結 四半期純利益
前回発表予想（A）	百万円 23,870	百万円 4,120	百万円 4,160	百万円 2,440	円 銭 57.08
今回修正予想（B）	24,910	4,460	4,550	2,960	69.24
増減額（B－A）	1,040	340	390	520	
増減率（％）	4.3%	8.2%	9.3%	21.3%	
（参考）前期中間実績 （平成 29 年 2 月期中間）	22,868	3,675	3,717	2,045	47.18

② 平成 30 年 2 月期通期連結業績予想数値の修正（平成 29 年 3 月 1 日～平成 30 年 2 月 28 日）

	連結売上高	連結営業利益	連結経常利益	親会社株主に 帰属する 当期純利益	1株当たり連結 当期純利益
前回発表予想（A）	百万円 48,800	百万円 8,380	百万円 8,460	百万円 4,980	円 銭 116.49
今回修正予想（B）	49,840	8,720	8,850	5,500	128.66
増減額（B－A）	1,040	340	390	520	
増減率（％）	2.1%	4.0%	4.6%	10.4%	
（参考）前期実績 （平成 29 年 2 月期）	44,232	7,120	7,228	4,132	95.81



③ 平成30年2月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正（平成29年3月1日～平成29年8月31日）

	売 上 高	経 常 利 益	四 半 期 純 利 益	1 株 当 たり 四 半 期 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 13,790	百万円 3,500	百万円 2,260	円 銭 52.86
今回修正予想（B）	14,440	3,850	2,700	63.16
増 減 額（B－A）	650	350	440	
増 減 率（％）	4.7%	10.0%	19.4%	
（参考）前期中間実績 （平成29年2月期中間）	13,057	3,238	2,103	48.53

④ 平成30年2月期通期個別業績予想数値の修正（平成29年3月1日～平成30年2月28日）

	売 上 高	経 常 利 益	当 期 純 利 益	1 株 当 たり 当 期 純 利 益
前回発表予想（A）	百万円 27,230	百万円 6,700	百万円 4,330	円 銭 101.29
今回修正予想（B）	27,880	7,050	4,770	111.58
増 減 額（B－A）	650	350	440	
増 減 率（％）	2.3%	5.2%	10.1%	
（参考）前期実績 （平成29年2月期）	25,746	6,279	4,139	95.97

2. 修正の理由

① 連結業績予想

当社グループの今年度は、昨年度まで下落を続けてきた資源価格が安定し、かつ外国為替も安定したため、当社グループの製造するリサイクル製品価格も安定し、さらには主力事業である産業廃棄物処理業のシェアアップも順調に推移し、業績は堅調に推移しております。唯一、土壌汚染の処理事業を主たる業務とする株式会社ダイセキ環境ソリューションにおいては、売上高はほぼ予定通り推移いたしましたが、今年3月に完成した新たな土壌汚染洗浄工場の立ち上げ費用が予想以上となり、利益が計画を下回る結果となっております。ただ、その他の事業は前述のとおり堅調に推移しており、土壌汚染処理事業のマイナス部分を吸収したうえで、利益面では計画を上回って推移をしております。

このため、第2四半期累計期間及び通期における売上高、営業利益、経常利益及び親会社株主に帰属する当期（四半期）純利益につきまして、平成29年4月6日に公表しました業績予想を上回る見通しとなったため、業績予想を上方修正いたします。なお、当初計画においては、親会社株主に帰属する当期純利益を除く営業利益、経常利益が過去最高益を上回る予想でしたが、修正後の業績予想では親会社株主に帰属する当期純利益も過去最高を更新する見込みとなります。



② 個別業績予想

当社の今年度は、堅調に推移する国内鉱工業生産を背景に、産業廃棄物受入量は順調に推移いたしました。また、昨年度半ばまで下落の続いた石油製品価格も安定し、当社の製造するリサイクル燃料価格も安定して推移いたしました。さらには、全事業所においてユーザー数は増加を続け、業績は堅調に推移いたしました。

このため、第2四半期累計期間及び通期における売上高、経常利益及び当期(四半期)純利益につきまして、平成29年4月6日に公表しました業績予想を上回る見通しとなったため、業績予想を上方修正いたします。

(注) 上記に記載した予想数値は、現時点で入手可能な情報に基づき判断した見通しであり、多分に不確定な要素を含んでおります。実際の実績等は、業績の変化等により、上記予想数値と異なる場合があります。

以 上